

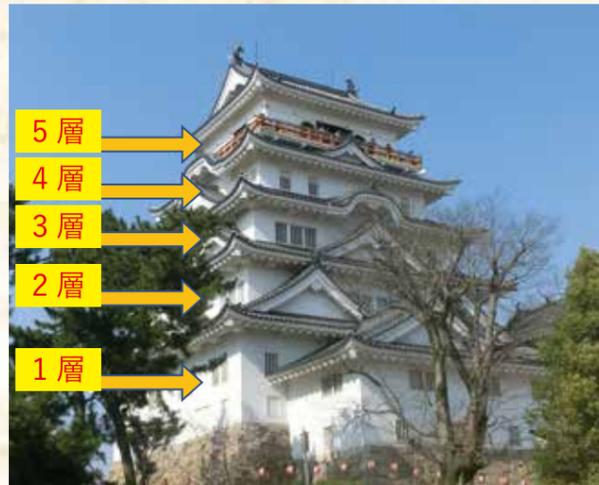
①天守

5重6階(地下1階)。天守に2重3階の付櫓(小天守)がついた複合式(ふくごうしき)天守です。1層から最上階まで同じ形の層を積み、上に行くほど規則的に屋根が小さくなる層塔型(そうとうがた)の天守です。城の天守というものは、城主などが住んでいるイメージがありますが江戸時代になるにつれ、外見こそ豪華であったが内部は質素な形で、城主や客なども中には入らなかったのです。いわゆる「見せるための天守」でした。福山城の天守の特徴としては、天守北側の壁に鉄板が張られていたことです。理由としては、北側からの風雨を避けるためと、搦(から)め手(裏口)であり、防御が薄かった北側から大砲などの攻撃に備えるためです。このようなつくりの城は無く、とても珍しい貴重なものでした。2022(令和4)年の築城400年を記念して、天守北面に鉄板が張られる予定です。

福山城の天守は、1933(昭和8)年に国宝に指定され、日本に18しかない天守が現存した城でありました。

しかし、1945(昭和20)年8月8日の空襲によって、惜しくも天守は焼失してしまいました。

現在の天守は、市制50周年を記念して、1966(昭和41)年に再建されたものです。



福山城天守の5重6階の重(層)とは建築物の屋根の数のことです。当時の天守の高さランキングでは全国で第7位の約30メートルです。7位は大したことないと考えた方もおられると思いますが、上位には江戸城、大阪城、名古屋城をはじめとした徳川家の城です。しかしながら、たった10万石の大名水野家がこれほどのものを建てることのできたということがすごいことです。ビル10階建てほどの高さです。

築城400年に向け 鉄板張り復元へ！



2022(令和4)年に福山城築城から400年という節目の年を迎えます。現在の天守は昔の天守と違う部分が多々あります。大きな違いといえば北側の鉄板張りです。これは全国で一つしかない珍しいつくりでした。

2022年8月末ごろには完成予定です。ぜひ足を運んでみてください。

②筋鉄御門 (すじがねごもん)



福山城の正門であり、本丸への敵の侵入を防ぐための最後の関門です。

この門は、伏見櫓と同じく京都にある伏見城から移築したものだといわれています。

筋鉄御門の『筋鉄』の名前の由来は、柱や扉などに筋鉄を打ち付けていることです。

この門は枳形(表面参照)を形成しているため、正面には本丸内に侵入されないように格子窓があり、防御システムです。

内部は、非公開となっています。

③伏見櫓

3重3階の櫓です。伏見櫓は、写真のように1層部分と2層部分の幅が同じになっています。その上に小さめの3層をのせた望楼型(ぼうろうがた)です。望楼型は福山城天守の層塔型より古風なつくりです。

伏見櫓の内部は、武具庫として使用されていたといわれています。伏見櫓の東側には、筋鉄御門があり、表面で紹介した枳形虎口が形成されており、本丸(天守があるところ)へ敵が侵入することを阻むための最後の関門です。そのため内部では、狭間や格子窓(こうしまど)などの防御システムが多数あります。

伏見櫓は、京都にある伏見城の松の丸東櫓を移築したものです。伏見城は、豊臣秀吉が晩年を過ごし、徳川家康が再建しましたが1619(元和5)年に廃城となったため、福山城に移築されました。

その移築された証拠となる文字が伏見櫓内の2階梁に残されています。1954(昭和29)年の解体修理の際に「松の丸の東やぐら」という縦書きの文字が確認されました。今は、梁に彫られていた文字を白く塗り、見えやすくなっています。



1933(昭和8)年に国宝に指定され、福山大空襲からの被災も逃れ、現存する三重櫓として、国の重要文化財に指定されています。毎年11月3日(文化の日)に内部公開をしています。

福山駅新幹線ホームから一望できる城

福山城に行きたくても時間の都合でいけない方や美しい福山城を見たい方は福山駅新幹線ホームからがおすすめです。

福山駅は城の中にある駅なので美しい建築物や石垣がみられます。

伏見櫓下の面白い石垣



伏見櫓下の写真を比べてみてください。表面の加工の加減が違います。簡単に言えば、右の平面の石垣は石垣加工のプロがやったものです。左の石垣は力の強い若者が加工したものだと考えられます。

このように石垣の表面などを見ることでどのような人が加工したかなどが分かるのでとても面白いです。

矢穴



矢穴とは、石材を割る際に矢と呼ばれる道具を使います。その際に矢を入れ込んだ跡です。

本来ならば矢穴跡は左のように石の隅につくのが普通ですが、伏見櫓下の石垣の一つに石垣中央部に穴が開いています。これは石垣の設計が変わったなどのミス証なのです。

福山城は1622(元和8)年に築城されましたが、幕府が大金を払い急ピッチで築かれた城です。個人的な意見ですが、江戸時代になって石垣の加工技術は大いに上がりましたが、大急ぎで築いたせいかミスなどがあったと思います。

④御湯殿

御湯殿は、昔、伏見御殿とつながっていて、伏見御殿と同じく伏見城から移築したとされています。

御湯殿は名前の通り、お風呂でした。昔の風呂は今でいう蒸し蒸しのサウナ状態でした。

建築物が石垣の上に張り出した「懸造(かけづくり)」と呼ばれる造りで、城郭で使用されるのは、珍しく仙台城とここ福山城にしかなかったと言われています。

